講義科目名称: 土質力学演習 CV4-A15-50 科目コード: 21530

英文科目名称: Exercises on Soil Mechanics

開講期間 2年後期		配当年	単位数	科目必選区分			
		2	2	必修			
担当教員				•			
中澤 博志							
添付ファイル					<u> </u>		
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·							
講義概要	う、土質力 化できるこ	J学を学習する Lと、地盤内に	。演習内容と目標 発生する応力や:	票は、土の物理的性質 上圧を計算できること、	、設計実務における問題解決を自力でできるよとその構造の理解に基づき、土の状態量を定量 有効応力の概念の理解、1次元圧密方程式に基 王縮試験結果に基づいて強度定数を求めるこ		
	と、およて現場におけ	バ斜面破壊形態	の理解と安全率の 磁となり得る知言	り求め方等である。演習	習では、これらの考え方と計算方法を理解し、 する。この科目は、地盤工学分野の実務経験の		
授業計画	1	• 本演習	め方とガイダンス の進め方を説明す 習を通じて身に着	る。具体的には、土質	力学で身に着けた知識が実際に使える知識とす		
	2	土の物理 ・含水比,	法について復習を	密度,間隙比,飽和度 行いこれらの演習を行	i,単位体積重量,土粒子の密度等の土の物理量 i う。		
	3				,粒径加積曲線や塑性図などを用いた演習を行		
	5	・土の締  (AL①, (		締固め曲線の描き方の	復習と演習を行う。		
	6	・透水係 う。 (AL①, (	数を求める試験法	とダルシーの法則、透	水量および圧力水頭に関する復習と演習を行		
	7	(AL①, ( 前半の復 <sup>2</sup> ・1~5回	2, 4) P	沈下量、圧密時間の第    解度チェックを行う。	[定方法の復習と演習を行う。		
	8	(AL①) 土のせん! ・モール( (AL①, (	の応力円とクーロ	ンの破壊規準式等、せ	こん断について復習を行う。		
	9	土のせん  ・一軸圧 (AL①, (	断に関する演習(1 縮試験に関する復 ②, ④)	習と演習を行う。			
	10	· 三軸圧》 (AL①, (		() 習と演習を行う。			
	12		安定計算手法に関 ②, ④)	する復習と演習を行う			
	13	・静止土 (AL①, ( 浅い基礎)	王、主働土圧,受 ②,④) の支持力		ンキンの土圧理論の復習と演習を行う。		
	14	(AL①,( 後半の復 <sup>2</sup>	2), (4)		<b>構の関する復習と演習を行う。</b>		
	15	(AL①) 演習の総	括	理解度チェックを行う。 講義全体を通じての総			
授業形態	・パワーオ	・板書を中心に、パワーポイント・動画併用した解説による講義を行う. ・パワーポイントを用いる際は、資料を配布する. アクティブラーニング:①15回、②11回、③0回、④11回、⑤0回、⑥0回					
達成目標	・この演習	<ul><li>・「土質力学」で学習した知識をさらに深めるためことを目的とする。</li><li>・この演習を履修した学生は、「土質力学」で学習した知識を適切に応用できる。</li></ul>					
評価方法・フィー ドバック	-  ・演習・レ ・原則とし	νポート・期末 νて、演習・レ	試験により評価。 パート等のフィ	ードバックは次回以降の	の授業内で実施する。		

評価基準	秀(90点以上),優(89~80点),良(79~70点),可(69~60点),不可(59点以下)				
教科書・参考書	【参考書】 1)「土木職公務員試験 専門問題と解答 必修科目編」,米田昌弘 著,大学教育出版 2)「土木職公務員試験 専門問題と解答 選択科目編」,米田昌弘 著,大学教育出版				
履修条件	無し				
履修上の注意	・講義の中で、土質力学で学んだ内容が含まれていることを意識して受講すること.				
準備学習と課題の 内容	・講義では、問題とその解法事例として適宜提示していく.復習により習得しておくことが望ましい. (毎回、予習復習それぞれ1.5時間程度)				
ディプロマポリ シーとの関連割合 (必須)	知識・理解:30%, 思考・判断:30%, 関心・意欲:20%, 態度:10%, 技能・表現:10%				
DP1 知識・理解					
DP2 思考判断					
DP3 関心意欲					
DP4 態度					
DP5 技能・表現					